

登録コード	SSD16500	開講年度	2026				
授業題目	津波堆積学				担当教員	山田 昌樹	
英文授業名	Tsunami sedimentology				副担当		
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	不定期		
講義室					備考	選択	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				【授業の達成目標】		
	2 6 SSカリ・理学, 2 5 SSカリ・理学, 2 4 SSカリ・理学						
	【DP5】専門知識に基づいた見識を持ち, その妥当性を理論的に説明し, 議論する能力				津波によってどのような地質痕跡が残されるのか, その特徴を説明することができる. 地質中から過去の津波堆積物を識別する研究方法を理解し, 古地震・古津波研究の意義を説明することができる.		
(2)授業の概要	授業の前半では, 近年発生した津波イベントに関する実際の研究事例を紹介しながら解説する. 後半では, 過去に発生した地震と津波の履歴を, どのようなアプローチによって明らかにするのかについて, 実践的な知識・手法を紹介する.						
(3)授業のキーワード	地震・津波, 古地震・古津波, 自然災害科学, 堆積学						
(4)授業計画	第1回: 津波堆積物研究の始まり 第2回: 近年の研究事例: 2004年インド洋大津波 第3回: 近年の研究事例: 2011年東北地方太平洋沖地震津波 第4回: 近年の研究事例: 2024年能登半島地震津波 第5回: 近年の研究事例: 非地震性津波 第6回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 掘削調査 第7回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 堆積学的分析 第8回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 地球化学分析 第9回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 微化石分析 第10回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 年代測定 第11回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 津波石 第12回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 津波数値計算 第13回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 逆解析 第14回: 古地震・古津波研究のアプローチ: 歴史記録 第15回: まとめと質問対応 定期試験は実施しない						
(5)成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と授業内容の理解度(レポート課題)から総合的に評価する.						
(6)成績評価の基準	授業に取り組む姿勢(50点)とレポート課題(50点)を合計し, 90点以上をS(秀), 80点以上をA(優), 70点以上をB(良), 60点以上をC(可), 60点未満をD(不可)とする.						
(7)事前事後学習の内容	各回の授業内容を次週までに復習しておくこと.						
(8)履修上の注意	特になし.						
(9)質問,相談への対応	メール: yamada@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	特になし. 毎回スライドを配付する.						
【参考書】	論文を紹介する.						